



足立区

記者会見資料
平成20年6月24日
政策経営部財政課長
秋生課長(3880)5814
都市整備部市街地整備・立体化推進室長付副参事(調整)
佐々木副参事(3880)5937

J T 社宅跡地に、東京電機大学が進出決定！

(北千住駅東口周辺地区まちづくりにおける日本たばこ産業(株)社宅跡地計画について)

足立区では、基本構想の中で、「文化と教育を高め、心の豊かさと誇りのもてる未来をめざします。」を掲げ、高等教育機関を誘致し、文化教育立区を目指しています。その一環として、積極的に大学誘致を進めてきました。

その結果として、千住地区に東京藝術大学、東京未来大学が開学しており、平成22年には帝京科学大学キャンパスが開校する予定となっています。

北千住駅東口の日本たばこ産業(株)(以下「JT」という。)社宅跡地の再開発については、地権者であるJT、都市再生機構(以下「UR」という。)とともに区も積極的に関与し、「賑わい」のあるまちづくりを進めてまいりました。この中で、様々な検討が行われましたが、大学等の高等教育機関の誘致もその一つでした。

このたび区が、大学誘致に関してJT、URに協力を依頼したところ、大学とJT、URとの話し合いが進められ、三者で一定の合意が得られることとなりました。そして本日、大学とJT、URとの間で協議が整い、大学の進出が決定しました。

1 誘致大学

大学名	学校法人 東京電機大学
代表者	理事長 加藤 康太郎
住所	東京都千代田区神田錦町2-2

2 法人の概要沿革

東京電機大学は、明治40年(1907年)に神田において、私立「電機学校」として創立し、平成19年度(2007年)には創立100周年を迎えています。本学は、一貫して社会に真に役立つ科学技術者の養成という建学の理想を高く掲げ、一世紀に亘り、教育・研究を通じて社会の発展に貢献しています。

今日では、神田・小金井(東京都)、千葉ニュータウン(千葉県)、鳩山(埼玉県)の首都圏に4キャンパスを有し、大学院(4研究科)、大学学部(5学部)、高等学校、中学校に、学生生徒総数約12,000人が学び、4研究所を擁する理工系総合学園に発展し、卒業生はすでに19万人を数え、各界に有為な人材を送り続けています。

3 進出計画のコンセプト

新キャンパスは、文化教育立区を目指す足立区及び新キャンパスを設置する地域が計画する新しいまちづくりとの連携を目指すことから、教育・研究のみならず文教複合施設としての役割を踏まえ、「地域に根ざし、交流を図り、ともに発展すること」を念頭におき、ハード・ソフトの両面から開かれた大学づくりを計画しています。

大学の地域貢献としては、交通広場と連続する交流広場の自主的整備、囲いのない敷地内空地の緑化による緑濃い環境エコキャンパスの創出と地域開放、地域イベントへの協力、防災拠点としての非常時用設備の整備などが予定されており、地域に開かれた施設計画を進めていきます。

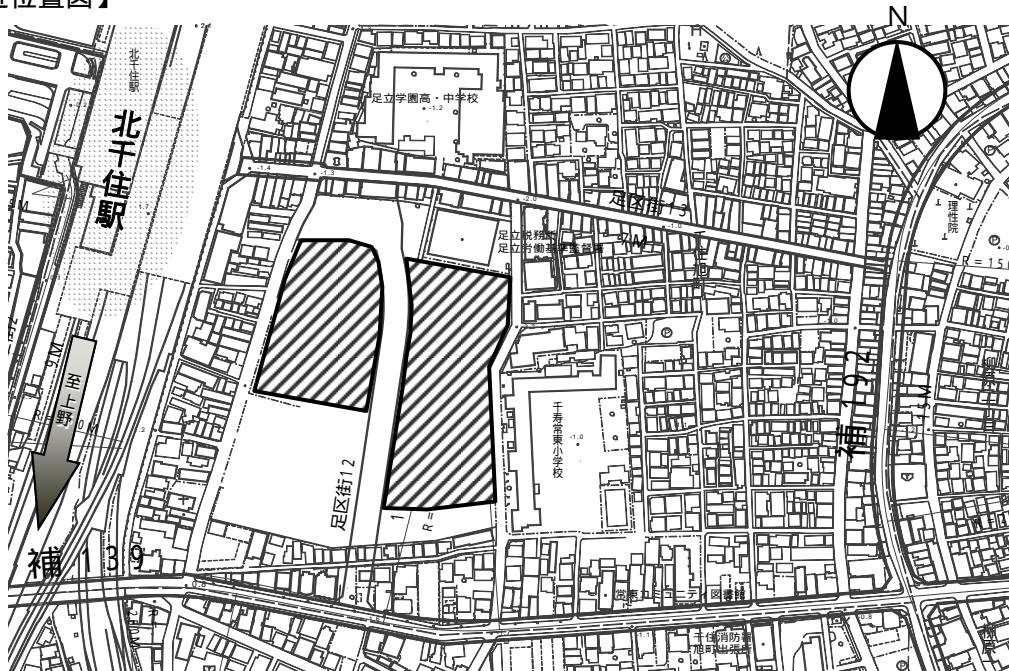
(1) 区との協働事業

今後、区と大学で、地域経済活性化、教育、防災等の分野における協働事業の基本的覚書を締結する予定です。また、個別事業については、キャンパス開設にむけ、順次協定等を締結していく予定です。

(2) 進出する大学の概要

進出時期	平成24年4月(予定)
学 長	古田 勝久
進出学部等の名称	工学部・未来科学部・大学院(工学研究科・未来科学研究科)等
収容学生数	学部・大学院 約5,000名
敷地規模	約1.9ヘクタール
併設する施設	地域貢献施設、産学連携施設、国際共同研究施設など

【付近位置図】



同大学誘致の取組み経緯について《参考資料》

まちづくりの取組み

当地区では、J T社宅跡地の土地利用転換を契機に、未整備の都市計画道路(学園通り)を見直すとともに防災性の向上や商店街の活性化を図り、良質な住環境を確保していくため、J T、U R並びに地元まちづくり連絡会と意見交換を重ねています。

1 主な経緯

平成 16 年 11 月 地元まちづくり連絡会の発足(延べ 23 回開催)

平成 18 年 6 月 地元まちづくり連絡会が区長へ要望書を提出

平成 19 年 5 月 区、J T、U Rが基本協定及び覚書を締結

平成 19 年 9 月 地元まちづくり連絡会が区議会に陳情書を提出

2 賑わい施設誘致について

J T社宅跡地全体開発では、区が主体的かつ先導的な役割を果し、区にとって最適な方向に誘導するため、J T所有地の一部を区が取得することも含め、地元商店街との共存共栄が図れかつ区のイメージアップや地域活性化に貢献できる賑わい複合施設の誘致を進めてきました。

文化教育立区への取組み

足立区では、高等教育機関を誘致し、文化教育立区を目指し、積極的に大学誘致を進めてきています。

現在までに進出した大学は、

- ・東京藝術大学(芸術系)
- ・未来大学(教育系)
- ・帝京科学大学(アニマル、福祉・医療、教育系)
- ・放送大学

で、今後誘致する大学については、理工系の大学が望ましいと考えていました。

新たな誘致候補地として、北千住駅東口にある旧第 16 中学校跡地(約 6,000 m²)を想定し、公募の準備を進め、候補の一つとして東京電機大学も名を連ねていました。

同大学は、創立 100 周年記念事業の一環として、神田地区での再構築を計画しており、施設建替えのための用地として旧 16 中跡地を調査していたところ、近隣にあった J T社宅跡地が目にとまり今回の進出を構想するに至ったようです。

区は、上記のとおり二つの方向から取組みを進めてきました。

まちづくり分野では、地元の要望などを踏まえ、区民意向調査や進出可能性のある企業などの調査を行いました。建設工事費の高騰など建設不動産部門の社会環境が大きく変わり、区が J Tから土地の一部を取得して賑わい施設を誘致する方法については、極めて慎重な対応が求められる状況となりました。

このような中で同大学から土地を取得し当該地に進出したい旨の打診があったことから、以下のような取組みを開始しました。

足立区としては、前述のとおり、大学誘致を積極的に進めており、理工系の総合大学は、地域経済の活性化や、地域産業との産官学連携のためにも、是非必要であると考えました。

また、東京電機大学は、創立 100 周年記念事業の一環として神田キャンパスの再構築計画を進めていることから、平成 24 年 4 月の新キャンパスオープンを目指しており、北千住駅東口地

区の開発計画のスケジュールにも整合しています。

同大学の物理的財産、知的財産、人的財産は、区政への貢献や、地域経済の活性化に大いに資すると考えられ、さらに、大学側が現時点で構想する計画案によれば、地元要望である賑わいづくりに大いに貢献できると判断しています。

また、東京電機大学は、これまで積み上げてきた当該地のまちづくりに関する協定や協議内容等についても基本的に承継する意向を示しており、区が目指している当該地区のまちづくりのパートナーとして大いに期待できると考えます。

そこで足立区は、区のイメージアップや地域の活性化への貢献、ＪＴ、ＵＲおよび大学の開発計画やスケジュールとの整合性、進出の確実性などから総合的に検討した結果、ＪＴ社宅跡地に東京電機大学を誘致することが最適であると、判断いたしました。

《参考》

平成 20 年 5 月 7 日：区からＪＴ、ＵＲに対し大学を紹介

平成 20 年 6 月 20 日：区からＪＴ、ＵＲに対し誘致協力依頼

平成 20 年 6 月 24 日：大学とＪＴが土地売買契約を締結

大学とＵＲが確認書の取り交わし